

雪消え近く

小川未明

青空文庫

はや ゆき き
早く雪が消えて、かわいた土の上で遊びたくなりました。雪の
下にかくれている土の色がなつかしいのであります。吉郎は、自
分の家の前だけでも早く雪をなくそうと思いました。それで朝か
ら外に出て木鋤で、雪をわってはそれを力いっぱい遠く畠の方へ
となげていました。

ひ
日がほかほかと当たってききました。しじゅうからが、林へ来て
鳴いています。空は、うす青く晴れて、なんとなく気持ちの伸び
の
伸びとするいいお天気でした。

よしお
「吉郎さん、雪をわっているの。」と、隣のとめ子さんが赤いえ
り巻きの中へ半分顔を埋めながら、そばへきていいました。

「はやく、雪がなくなるといいね。そうすれば、いろんなことをして遊べるだろう。」と、吉郎は、手を休めて、答えました。額ぎわには、働いたので、あせがにじんできました。

「おまりをついたり、鬼ごっこをしたりして遊べるわね。」

「だから、早く、僕、雪を消そうと思っているのさ。」

「私も、おてつだいをしましょうか。」

「とめ子さんは、自分の家の前の雪を消せばいいだろう。」

「じゃ、そうするわ。」

とめ子さんは、お家へ帰っていきました。するとまもなく、とめ子さんは、兄の年雄さんと二人で、支度をしてきました。年雄さんは堅い雪をわるのに、鉄のシャベルを持ち、とめ子さんは、

小さな木鋤を持っていました。

「やはり、吉郎さんのお家のほうからやっていきましようよ。吉郎さんのお家のほうがすんだら、私の家のほうをして、飛んで遊べるようにしまししようよ。」と、とめ子さんが、いいました。

「吉郎くん、それがいいだろう。」と、年雄さんが、いいました。「ああ、そうしよう。三人でやれば、今日じゆうに、ここだけ是可以るからね。」

三人は、雪をわって、それをなげるのに夢中でありました。はやく春がきて、土の上で遊べる楽しみを考えるからです。

昼過ぎになると、空がすこし曇りました。そして、風が寒くなつて、さらさらと雪が落ちてきました。

「あつ、また降^ふつてきたよ。」と、年雄^{としお}が空^{そら}を見上^{みあ}げました。

「せつかく、雪^{ゆき}をなくしたのに、つまらないわ。」

「^{とし}年ちゃん、じきに晴^はれるよ。あつちの方が明^{あか}るいだろう。」

吉郎^{よしお}は、南^{みなみ}から、西^{にし}へかけて、雲^{くもぎ}切れのし^{そら}ている空^さを指^さしまし
た。

「だって、北^{きた}の方は、黒^{くろ}いじゃないか。」

そこへ近^{きんじよ}所^{じよ}のおじさんが、ふところ手^てをして通^{とお}りかかりまし
た。

「おじさん、また降^ふるだろうか。」と、吉郎^{よしお}がききました。

「もう降^ふつてもたいしたことはない。南^{みなみ}が明^{あか}るいから南^{みなみ}風^{かぜ}が
出^でそう^でだ。そうすれば、どんどん消^きえてしまうからな。」と、お

じさんは、いいました。三人は、顔を見合つて、にっこり笑いました。おじさんの去つた後です。

「さあ、みんなよく働いてくれましたね。おいしいおしるこができたから、入つてお食たべなさい。」と、吉郎くんのお母かあさんが、戸口へ出てきて三人をお呼よびになりました。

「うれしいな、早くいつて食たべよう。」

三人は、シャベルも、木鋤こすきも、雪の上へほうり出だしてお家うちへ入りました。三人は、おしるこもうまかつたが、それよりか大おおきなみかんが、なによりうれしかったのです。

「大おおきなみかんね。」

「こんな大おおきいみかんのなつているところへいつてみたいな。」

「わたし、ご本で、みかんのなっているお山を見たわ。」

「絵なんか、つまらないよ。」

とめ子さんは、みかんを自分のほおに押しあてて、なかなか食べようとしませんでした。

そのうち、日の光がぱつと窓へ射しました。へやの中が急に明るくなりました。三人は、すぐに外へ飛び出していきました。

かげろうが、軒下で、輪を造つて、おどっていました。すぎの木の枝に当たる風が急になまあたかく感ぜられたのです。そして南の空から、西の空へかけて山々の頂のあたりが、いつそうす明るくオレンジ色になりました。

「おじさんのいったように、晩に南風が出るんだぜ。」と、

としお
年雄さんが、いいました。

「そうすれば、春はるがくるのだ。」

このとき、盲目もうもくの母親ははおやの手てを引きひながら、十五、六の娘むすめが、

ゆきみちある雪道ゆきみちを歩いていきました。母親ははおやは三味線しゃみせんを抱かかえていました。

たびげいにん
旅芸人たびげいにんです。

「暗くらくなつたらどこへ泊とまるんでしょう。」と、とめ子こさんが、

いいました。

「どこへ泊とまるんだろうな。」と、吉郎よしおくんも、見送みおくつていまし

た。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 12」講談社

1977（昭和52）年10月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

底本の親本：「小学四年生」

1939（昭和14）年3月号

初出：「小学四年生」

1939（昭和14）年3月号

※表題は底本では、「雪消《ゆきぎ》え近《ちか》く」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2017年1月12日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

雪消え近く

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>